

平成30年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園もえれのもり

1. 本園の教育・保育目標

「目指す子どもの姿」

- ① たくましく健康な心と体を持つ子ども
- ② 自分で考えて、意欲的に行動する子ども
- ③ 思いやりのある子ども
- ④ 気持ちの良い挨拶ができる子ども

「職員間の目標」

- ① 子ども中心・あそび中心の「子どもの城」を目指す。
- ② 保育者は子どもの心のサポーターとなり、必要な時に支えられるように見守る。
- ③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。
- ④ 家庭との連携を怠らず「共育」の推進を図る。(保護者との信頼関係の構築)
- ⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動を意識する。
- ⑥ 子どもが育つために必要不可欠な美味しい給食の提供をし、素材の持つ本物の味を伝え、身体に不要な物を取り込ませないという、食育の基本を伝えていく。

2. 今年度の重点目標

子どもが安心して、落ち着いて過ごせる雰囲気を保ち、良質な実体験がたっぷりできるような人的・物的・空間的・時間的環境を整え、子ども自らの気付きを奪わない「見守る保育」を進める。

3. 評価結果及び改善策

(1)「全体的な計画」に基づく保育の計画性について

【幼児部】

・行事の在り方や進め方について考え、検討を行い子どもにとって良い方向になるように考えていった。

【乳児部】

・保育内容や計画を保育教諭間で共通理解し、「今の時期何が必要か」などを考えていった。

(2) 異年齢保育のあり方、園児への対応について

【幼児部】

- ・わんぱくでの異年齢活動は人員配置や動きが計画通りにいかず実施できなかったことがあった。
- ・行事などをきっかけに異年齢の交流や活動の機会が増えた。

【乳児部】

- ・幼児部の子どものとの交流で不安なく進級できる機会となった。
- ・交流の機会では、幼児部からの働きかけが多く、良い影響をもらったが乳児からの何かしらの発信についても今後取り組んでいく必要があった。

(3) 保育教諭としての自己研修や研究について

【幼児部】

・子ども一人一人の見取りや活動の見通しができるような自己研鑽を積んでいくことや要支援の子どもに対する理解も深めていくように今後もしていくことが重要であった。

【乳児部】

・担当保育の経験が初めての保育教諭が多かったが、保育実践をしながら共通理解を深めていった。

(4) 保護者への対応について

【幼児部】

- ・子どもの具体的な姿を細かく伝えることを心がけるとともに、連絡などは要点を絞って簡潔に伝えるようにしていった。
- ・クラス担任とわんぱく担当との連絡や情報共有ができるように努めていった。

【乳児部】

- ・保護者へ積極的にコミュニケーションをとるようにしたが、伝えたいことなど十分に伝わっていないことがあった。
- ・対応の難しい保護者には、保育教諭一人ではなくチーム全体で今後も情報共有し、対応していく。

(5) 保育室などの環境構成について

【幼児部】

- ・子どもの興味や関心、または動線を考えながらコーナーの設定を工夫するようにした。
- ・子どもが落ち着いた環境の中であそびに取り組めるよう植物などの配置を行った。

【乳児部】

・どのような室内環境が子どもにとって良いのか保育教諭間の話し合いの場をもち、試行錯誤しながら進めていった。

4. 関連事業

○ 幼小交流及び地域との連携

- (1) 地域への開放、子育て支援事業の実施『あそぼうDAY』(年3回)
- (2) 近隣小学校との連携～札幌北小学校、札幌緑小学校との交流。
- (3) 東陵高校生の体験保育の受け入れ。